

今上は長年より御病に成りて居るに
おのれにてもよく御病に成りて居るに
おのれにてもよく御病に成りて居るに
おのれにてもよく御病に成りて居るに
おのれにてもよく御病に成りて居るに

一 御書に
おのれにてもよく御病に成りて居るに
おのれにてもよく御病に成りて居るに
おのれにてもよく御病に成りて居るに
おのれにてもよく御病に成りて居るに

夫れは

おのれにてもよく御病に成りて居るに
おのれにてもよく御病に成りて居るに
おのれにてもよく御病に成りて居るに
おのれにてもよく御病に成りて居るに
おのれにてもよく御病に成りて居るに

おのれにてもよく御病に成りて居るに
おのれにてもよく御病に成りて居るに
おのれにてもよく御病に成りて居るに
おのれにてもよく御病に成りて居るに
おのれにてもよく御病に成りて居るに

此後...
...
...
...
...

...
...
...
...
...
...

...
...
...
...
...
...

...
...
...
...
...

道原... 有... 萬... 早... 遠... 不... 伊... 而... 以... 有... 思...

力... 而... 向... 以... 後... 喜... 十... 十... 十...

十... 十... 十... 十... 十...

一 夢をみるまじき一夢の如き仲人
一 夢をみるまじき一夢の如き仲人
一 夢をみるまじき一夢の如き仲人

三月

夢をみるまじき一夢の如き仲人

夢をみるまじき一夢の如き仲人

夢をみるまじき一夢の如き仲人
夢をみるまじき一夢の如き仲人
夢をみるまじき一夢の如き仲人

日記

夢をみるまじき一夢の如き仲人
夢をみるまじき一夢の如き仲人
夢をみるまじき一夢の如き仲人
夢をみるまじき一夢の如き仲人
夢をみるまじき一夢の如き仲人
夢をみるまじき一夢の如き仲人
夢をみるまじき一夢の如き仲人
夢をみるまじき一夢の如き仲人
夢をみるまじき一夢の如き仲人
夢をみるまじき一夢の如き仲人

夢をみるまじき一夢の如き仲人

日記

42

名をうたふの歌

石白子



王羲之

十

[illegible][illegible]

王羲之

物乃天下
 之所共有
 故公家之
 物

三

内院

陳福堂

道

十

一 友人以書寄
一 附自元子所

冒名爲書

[illegible]

李氏之印

何者、女に

一 多岐路より来る
一目にたつたるあり
三書

四書

五書

一 多岐路より来る
一目にたつたるあり
三書
四書
五書

一 多岐路より来る
一目にたつたるあり
三書
四書
五書

一 多岐路より来る
一目にたつたるあり
三書
四書
五書

早きなりし山

早きなりし山

早きなりし山

早きなりし山

早きなりし山

早きなりし山

早きなりし山

早きなりし山

早きなりし山

早きなりし山

多田を列御...
...
...
...
...
...
...
...
...
...

三ー...

山崎...

山崎...

えん

...

...

...

...

...

...

長江の如く流るる
 水は常に清く
 濁るるを去るる
 心は常に清く
 濁るるを去るる
 五月五日

[illegible]

早書たてりて
新工のまゝに
お柳一木す
えりて
お柳一木す
えりて

三
 一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

池田播磨守
千五百石下地及園町保村印之字付藩所
由遊玩心動定作之事當役中申云古手
之遊玩心動定長坂宿中申云元龜元年
府官より主計不ありと云味重五箇年

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a single column and appears to be a list or a series of entries. The script is highly stylized and difficult to decipher without specialized knowledge of the language or dialect. The text is written on a piece of paper that is part of a bound volume, as evidenced by the binding visible on the left side of the image.

Small handwritten note or signature, possibly a date or a reference number, located below the main body of text.

Handwritten text, possibly a continuation of the main body or a separate entry, located at the bottom of the page. It is written in the same cursive script as the main text.

三

十

十

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

音
土
日

月
膳

十日
予初至府志
此城是昔年
所建其地亦
有古蹟云云
予初至府志
此城是昔年
所建其地亦
有古蹟云云

出方々之命之
字々有飛

五言古詩

三

創

[illegible][illegible]

[illegible]

切方
十
日
九.

日中月出

白雲山

一時傷心乃生此

多子福

一、作字之要

王

管仲

一、
 今昔をわたりて
 江戸の事

省は聖く日本は外に海を臨

13

中野文子

一
 龍頂御便了御宇、殊に御前、御品、御
 姻、御知、御教、御志、御出、御入、御上、御下
 御入、御出、御上、御下、御入、御出、御上、御下

東中極品白毫中一兩裝茶葉一斤裝茶葉

新刊中興集卷之九

一 此は...
一 此は...
一 此は...
一 此は...

一 此は...
一 此は...

三月
十二日

十三日

一 此は...

一 此は...
一 此は...

一 此は...
一 此は...

一 此は...
一 此は...

天保十一年七月
 一 竹屋年々
 日月
 竹屋年々
 在
 三
 右
 三
 竹屋年々
 在

天保十一年七月
 一 竹屋年々
 日月
 竹屋年々
 在

天保十一年七月
 一 竹屋年々
 日月
 竹屋年々
 在

[Illegible cursive Japanese calligraphy]

王明道先生文集卷之五

曹公作詩

今晚

[illegible]

7

右の如く...
三月十一日

三月十一日

日候

...
...
...

...
...

